

**いま** No.35  
**清掃事業は...**  
**中央区**

**次世代を担う、**

**青年部の育成が重要**

**可燃については  
全域で直営収集**

2021年度の中央区清掃事業は、燃やすごみについて2010年のあり方検討委員会、「可燃ごみは直営で収集」の方向性が示されたので、全域直営で収集、全て正規職員です。新大5台(燃率5回B勤のみ)小プ10台(燃率5・5回A勤8台・B勤2台)直営車は新大2台、小プ1台、軽小3台の稼働となっています。(小プの積載基準はプレス作業しない取組みで1・3tを継続)燃やさないごみについては全域車付雇上、小排4台(燃率3回)で週1回の収集日を設定しています。ふれあい指導班は4班体制。資源、容リプラ、粗大は全て委託。自動

車整備に会計年度任用職員の確保が重要な課題となっており、中央区では軽小を配置していましたが、来年度の稼働が3台しかなく配置に限界があり、誰もが安心して退職を迎えるためには、軽小の増車、ふれあい指導班の拡充等、他区の状態も注視しつつ取組みを強化していくことが必要不可欠です。

**来年度も採用が確定**

区移管の際に日本橋と京橋の事務所が合併され、当時、164名いた組合員が現在は89名まで減少しています(年齢構成は60代・11名、50代・46名、40代・15名、30代・9名、20代・8名)現状、再任用職員はすべて短時間勤務を希望しており軽小の上乗り、ふれあい指導班に配置しています

支部の課題としては、組合員の担い手不足、技能長・技能主任選考試験の受験者数の減少、緊急事態宣言や八重洲地区の再開に伴う日取り早期収集の大幅な縮減、集合住宅やタワーマンションの増加によるごみ量増、選手村後の住宅化、コロナ対応など様々な問題があります。新規採用については区移管以降、24名の採用を勝ち取ってきました。

来年度も若干名の採用が決定しています。支部として、次世代を担う青年部の育成が重要と考えています。

凍結していた青年部会も定期的に行うようになり青年部の意見を先輩に伝えていく中で、職場内において刺激を与えていると感じています。新型コロナウイルス感染拡大の収まりの兆しが見えない中、労働組合としての活動もほとんどが制限され、取組みの中で引き継がれていくものが、難しくなっていると思えます。労働組合は入っていただければ安心ではなく、自分たちの取組みが自分たちに返ってくるものだと思います。今できることを模索しながら、一人ひとりが労働組合の一員、同じ職場で働く仲間としての「意識」を育むことを大事にしていきたいです。みんなで話し合い共有意識の中で仲間・職場・組織のことを考えていける形を作っていきたいと考えています。

青年部活動について

凍結していた青年部会も定期的に行うようになり青年部の意見を先輩に伝えていく中で、職場内において刺激を与えていると感じています。新型コロナウイルス感染拡大の収まりの兆しが見えない中、労働組合としての活動もほとんどが制限され、取組みの中で引き継がれていくものが、難しくなっていると思えます。労働組合は入っていただければ安心ではなく、自分たちの取組みが自分たちに返ってくるものだと思います。今できることを模索しながら、一人ひとりが労働組合の一員、同じ職場で働く仲間としての「意識」を育むことを大事にしていきたいです。みんなで話し合い共有意識の中で仲間・職場・組織のことを考えていける形を作っていきたいと考えています。

凍結していた青年部会も定期的に行うようになり青年部の意見を先輩に伝えていく中で、職場内において刺激を与えていると感じています。新型コロナウイルス感染拡大の収まりの兆しが見えない中、労働組合としての活動もほとんどが制限され、取組みの中で引き継がれていくものが、難しくなっていると思えます。労働組合は入っていただければ安心ではなく、自分たちの取組みが自分たちに返ってくるものだと思います。今できることを模索しながら、一人ひとりが労働組合の一員、同じ職場で働く仲間としての「意識」を育むことを大事にしていきたいです。みんなで話し合い共有意識の中で仲間・職場・組織のことを考えていける形を作っていきたいと考えています。

凍結していた青年部会も定期的に行うようになり青年部の意見を先輩に伝えていく中で、職場内において刺激を与えていると感じています。新型コロナウイルス感染拡大の収まりの兆しが見えない中、労働組合としての活動もほとんどが制限され、取組みの中で引き継がれていくものが、難しくなっていると思えます。労働組合は入っていただければ安心ではなく、自分たちの取組みが自分たちに返ってくるものだと思います。今できることを模索しながら、一人ひとりが労働組合の一員、同じ職場で働く仲間としての「意識」を育むことを大事にしていきたいです。みんなで話し合い共有意識の中で仲間・職場・組織のことを考えていける形を作っていきたいと考えています。



東京清掃労働組合 中央支部青年部再建大会

**区民と一体となって築く清掃事業を**

**23区統一的にプラスチックに係る資源化を目指す**

**第57年次自治研集会**



▲190名の参加者で開催した

な日曜日の早朝からにもかかわらず、各級議員や各区当局を含む190名が参加されました。参加された多くの方に敬意を表します。集会の講師には環境省リサイクル推進室の平尾室長を招き、「プラスチックに係る資源循環に於ける法律」について、講演いただきました。会場では活発な質疑応答が行われ、課題の関心の高さが伺えました。引き続き、環境省平尾室長に貴重な講演をしていただいた。

10月3日(日)9時30分、一ツ橋ホールにおいて、第57年次地方自治研究集会を開催しました。貴重な機会をいただきました。貴重な講演をしていただいた環境省平尾室長



▲貴重な講演をしていただいた環境省平尾室長

区当局の皆さんと、ともに築く清掃事業を」と、プラスチックに係る資源化を契機とした清掃事業の発展のための提起がありました。わが組合としても引続き、国の方針に基づき、23区で統一した「プラスチックに係る資源化」を求めて取り組んでいきます。各支部・組合員の方のご協力を宜しくお願いいたします。(泉田 和明)

**運動の展開と連帯で全面解決を**

**FAユナイテッド闘争 10.1銀座デモ**



10月1日(金)台風の影響により雨風が強い日中となりましたが、予定どおり「10・1銀座デモ」が開催されました。集会の開始時間が近くなるにつれて、風は弱まり、そして見事に雨は止み、多くの仲間が結集しました。コロナ禍のためミニ集会となり、闘争団からは、この間の経過報告と解雇撤回・原職復帰を求める決意表明が述べられました。その後は参加した100名以上の仲間たちと銀座の街をデモ行進し、徹してきました。第一番での判決の見直しを求めている控訴審は、5月31日に結審し今重要な局面を迎えています。集会の中で、12月に判決が出される報告もあり、勝利判決を目指してさらなる運動を進めていかなければなりません。雇用と生活を守るため、運動の展開と連帯で全面解決を粘り強く闘い抜くためにも、東京清掃労働組合としても、引き続き共闘していきます。(坂部 貴之)

**〇〇〇〇**

最近、子どもとLINEをする機会が増えました。ある時、送られてくる文章に違和感を覚え、よく見てみると、句読点がほとんどないことに気づきました。読点は若干あるのですが、句点は全くない。どういふことか。ネットで調べてみました。こんな些細な疑問でも、丁寧に解説されているサイトがありました。世の中、本当に便利になったものです。▼詳細は、お時間のある時にも各人でお調べいただくと、要約すると、文章ではなく会話として捉えた若者たちがよく使うもので、読点は送信し、句点は省略する「打ち言葉」と呼ばれるもの。これ、なんと、文化学者が話し言葉や書き言葉とも違うものとして定義したようです。▼ちなみに、句読点を使うことをおじさんLINEと揶揄されるので、おじさんか。・。職歴25年、おじさんだよな。このまま、ぼやいて終わっては怒られそうなので、末筆ながら、コロナ禍で奮闘されている皆様へ。くれぐれもお自愛くださいませ。(江東区担当中執 木村 秀昭)

